|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  | Microsoft Wordとテンプレートファイルを使った要旨原稿の書き方 |  |
| 阪大理, 東大物性研A, 東北大理B, BNLC, 石橋 蛍, 柏葉 龍土A, 青葉 繁夫B, Richard UptonC |
|  |
| How to write your abstract using this template file and Microsoft Word  |
| Osaka Univ., ISSP U. of TokyoA, Tohoku Univ.B, BNLC, Hotaru Ishibashi, Ryudo KashiwabaA, Shigeo AobaB, Richard UptonC |
|  |

このテンプレートファイルを使うためには、Microsoft Wordが必要です。日本語フォントはMS P明朝とMS Pゴシックを、英語フォントはTimes New Romanを使っています。本文のフォントサイズは11pt（改行幅15pt固定）です。それ以外のフォントサイズは以下の通りです。

* 日本語講演題目 15pt (改行幅　17pt固定)
* 日本語氏名所属 10pt (改行幅　11pt固定)
* 英語講演題目 12pt (改行幅　13pt固定)
* 英語氏名・所属 9pt (改行幅　10pt固定)

これらの項目は罫線のない表を用いて位置を決めています。各項目は表の枠の中に入力してください。置き換えをしていけばフォント・段落情報はそのまま引き継がれます。スタイルを定義してありますので、見た目が変わってしまった場合には対応するスタイルを適応してください。また、各項目とも２行までは対応していますので、その範囲に文字数を収めるようにしてください。

要旨本文は全角で40文字×40行程度のエリアを割り当てています。図や数式の貼付けなどはMicrosoft Wordの機能を使ってください。

このテンプレートは、MacOSX10.5上のMicrosoft Word 2008 for Mac (ver.12.1.2)を用いて、互換モード（Word 97-2004文書 .doc）のファイル形式で作成をしました。

[1] S. Sawada, G. Shirane and H. Sugawara, J. Phys. Soc. Jpn. **2** (1947) 90.

[2] G. Shirane, T. Oguchi, J. Phys. Soc. Jpn. **3** (1948) 274.

[3] 参考文献を書く事ができます。（参考文献スタイルを定義してあります）。文献が長くなった場合には自動的に２行目以降はぶら下がりするようになっています。番号と文献の間はタブで送ってください。